

# 手賀沼水生生物研究会 2020年度の活動

## 🚩 観察会



・「用水路で魚とり！～手賀沼親子自然観察会」……年2回開催。新型コロナウイルスのため、参加者を通常の半分（25～30名）とし、水槽展示を2卓に分け、講師も2名で開催できました。

・「手賀沼水辺探検」……我孫子市環境レンジャーとの共催。同じく新型コロナウイルス対策で30名の参加者を3班に分け、水槽展示も3卓、講師3名で実施。とても大変でしたが、参加者は講師を独占できて大喜びでした。

・そのほか、昨年は新型コロナウイルス対策で10～11月に散発的に開催されたフィッシングセンターの「ヌマベウイークエンド」に、手賀沼まんだらに協力して水槽を展示しました。



## ✚ 調査

・手賀沼船上調査……毎年恒例の魚類・プランクトンの調査ですが、新型コロナのはざまの時期に開催できました。船で沖に出て沼に降り、足で貝類を探します。昨年、調査への協力を求めてコンタクトしてきた東邦中学の生徒も参加しました。問題となっているヒメガマの衰退が実感されました。



- ・江戸川河川敷貝類調査……江戸川の河川敷に造られた湿地での貝類調査も実施できました。
- ・渡良瀬遊水地貝類調査……新型コロナの第3波と第4波の間に奇跡的に開催できました。



## 生きもの保全活動



・NEC我孫子事業場内「四つ池」における保全活動……昨年度は新型コロナの影響で事業場内に入場できる日が極端に少なく、希少種オオモノサシトンボや、野生復帰を目指して人工池に導入したゼニタナゴの生息状況が危ぶまれました。そこで、アメリカザリガニ対策としてNECの協力によりウナギを導入したり、ゼニタナゴの産卵母貝である二枚貝を湧水池で越冬させるなどの活動を行いました。



## 🌈 その他

・勉強会……10/10 に東北大学大学院の佐野勲さんを招いて二枚貝の勉強会を行ったほか、2021年3月20日、『自然通信』編集長の田中利勝さんを招き、「生きものを軸とした環境保全と再生について考える～江戸川保全活動と関東コウノトリネットの事例から」を開催し、ゼニタナゴを軸とした地域の環境保全活動の可能性を模索しました。

・そのほか、小学校の理科教師の方からの依頼で小学校に魚類を提供したところ、すばらしい水槽展示をしていただきました。また、県の施設から手賀沼を体験するイベントへの協力を求められるなど、活動の広がりを感じています。